



©Dario Acosta/DG

ダニール・トリフォノフ Daniil Trifonov

ダニール・トリフォノフはグラミー賞受賞ピアニストであり、ソロ・アーティスト、協奏曲のソリスト、室内楽奏者、声楽の共演者、そして作曲家である。2026/27年シーズンには、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団と共に、ニューヨークのカーネギーホールおよび南米ツアーで、ブラームスのピアノ協奏曲第1番を演奏する。また普段あまり演奏されないベートーヴェンの作品を取り上げるベルリン・バロック・ゾリステンとの欧州ツアーや、ヘンデル、シューベルト、ストラヴィンスキー、ヴィラ＝ロボス、フランシスコ・ガルシア他、そしてコンポーザー・ピアニストであるトリフォノフ自身の作品を取り上げる大西洋をまたぐ大規模なソロ・リサイタル・ツアーや、ラテン・アメリカの音楽を集めた最新盤のリリースなどが予定されている。

トリフォノフは、ワルシャワのショパン国際コンクールで第3位、テルアビブのルービンシュタイン国際コンクールで優勝、チャイコフスキー国際コンクールではピアノ部門第1位と全部門を通じたグランプリを獲得している。米クリーヴランド音楽院にてセルゲイ・ババヤンのもとで研鑽を積んだ。



ルーカス・ゲニューシャス Lukas Geniušas

1990年モスクワで音楽一家に生まれる。祖母のゴルノスターエフはモスクワ音楽院の教授。2010年のショパン国際コンクールと2015年のチャイコフスキー国際コンクールで両方第2位を受賞した。

これまでサロネン、ソビエフ、エメリヤニチェフ、プレトニョフらの指揮のもと、フィラデルフィア管、バリ管、N響などと共演、リサイタルでは、ロンドンのウイグモアホール、アムステルダム・コンセルトヘボウ、ハンブルクのエルブフィルハーモニーなど世界の主要ホールに招かれているほか、ヴェルビエ、ラ・ロック・ダンテロン、ロッケンハウスなどの著名音楽祭にも出演している。室内楽ではブリッテンや妻のA.ゲニューシェネと共演し、ソプラノのグリゴリアンとはザルツブルク音楽祭やベルリン・フィルハーモニー、スカラ座などで公演を行った。

録音も数多く、ラフマニノフの未出版の手稿譜に基づくピアノ・ソナタ第1番のCDはグラモフォン誌の5つ星やクラシカ誌のショク賞ほかを受賞。最新盤のチャイコフスキーとシューベルト=リストによるアルバムも極めて高い評価を受けている。



ジアシン・ミン Jiaxin Min

2025年エリザベート王妃国際音楽コンクールに入賞し、国際的な注目を集めた。同コンクールでは詩情豊かで人を惹きつける演奏がベルギー国内外の聴衆から高く評価された。その直後、ブリュッセルのフラジェでソロ・リサイタル・デビューを果たし、公演は完売。2025年12月の再招聘時もわずか2日で完売となった。

近年の主な活動として、ブルージュのMAフェスティバルでのリサイタル、奈良・名古屋・東京を巡る初の日本リサイタル・ツアー、上海MISAフェスティバルへの出演などがある。2026年10月にはデビュー・アルバムがFuga Liberaよりリリース。これを記念して同年11月にはフラジェで3度目となるソロ・リサイタルを行う。フォンテーヌブロー・ラヴェル賞、スタインウェイ国際コンクール、クーバー・ピアノ・フェスティバル・コンクール、KAWAIアジア・ピアノ・コンクールなど、数々のコンクールで入賞・受賞歴を持つ。4歳でピアノを始め、上海音楽学院で周挺（ジョウ・ティン）に師事。その後、ジュリアード音楽院でセルゲイ・ババヤンおよびマッティ・ラエカリオに学び、英国王立音楽大学ではドミトリ・アレクセーエフおよびヴィタリー・ピサレンコのもとで研鑽を積んだ。



©Ayusiet

阪田知樹 Tomoki Sakata

2016年フランツ・リスト国際ピアノコンクール第1位、6つの特別賞。2021年エリザベート王妃国際音楽コンクール第4位入賞。第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにて冠冕19歳で最年少入賞。極めて広範なレパートリーを持ち、演奏したピアノ協奏曲は50曲を超える。国内はもとより、世界各地20カ国以上で演奏を重ね、音楽祭への出演多数。クレムリン国際音楽祭では、オール・リスト・プログラムによるリサイタルをニコライ・ペトロフ氏が「世界一のリスト」と絶賛。2018年には、ドイツの名門ライプツヒ・ゲヴァントハウスにてリサイタルデビューを果たした。

2022年には、神奈川フィルハーモニー管弦楽団とのピアノ協奏曲弾き振り、及びリストの管弦楽作品日本初演の指揮を行い、指揮者デビュー。作曲家としても精力的な活動を展開しており、音楽之友社より楽譜を出版。2015年CDデビュー、2020年3月、世界初録音を含む意欲的な編曲作品アルバムをリリース。国内外でのテレビ・ラジオ等メディア出演も多い。第66回横浜文化賞文化芸術奨励賞、第32回出光音楽賞、第72回神奈川文化賞未来賞、第27回ホテルオークラ音楽賞、第38回ミュージック・ペンクラブ音楽賞を受賞。



©Peter Rigaud

ルーカス・シュテルナート Lukas Sternath

2001年ウィーン生まれ。2022年ARDミュンヘン国際音楽コンクールにおいて第1位に輝き、聴衆賞、委嘱作品最優秀演奏賞を含む7つの特別賞を受賞。

2025年サカリ・オラモ指揮BBC交響楽団との共演でBBCプロムスにデビュー。同年秋には、トゥガン・ソビエフ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と共演し高い評価を得た。2025/26シーズンより自ら企画・監修する「ルーカス・シュテルナート・サイクル」を開始。

2026/27シーズンにはリッカルド・シャイー指揮ルツェルン祝祭管弦楽団との共演でルツェルン音楽祭に再登場する。またバンベルク交響楽団、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、フィルハーモニア管弦楽団との共演も控えている。リサイタルでは、ウイグモア・ホール、ウィーン楽友協会、シャンゼリゼ劇場、コンセルトヘボウなど世界有数のホールに出演する。2026年秋にはデビュー・アルバムをリリース。

これまでに、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、マラー・チェンバー・オーケストラ、ウィーン交響楽団などと共演。



©Sussane Diesner

中川優芽花 Yumeka Nakagawa

2021年クララ・ハスキル国際ピアノコンクールで優勝、聴衆賞も受賞。またロベルト・シューマン国際コンクール（2019）、イエネー・タカーチ国際コンクール（2018）でも優勝している。2019年以降ロンドンのウイグモア・ホール、デュッセルドルフのトーンハレ、ワイマールハレなどで演奏している。サンクトペテルブルクで開催された第16回マリインスキー国際ピアノ・フェスティバルにも招待された。

2022-23シーズンはクリスティアン・ツァハリアスが指揮するホーフ交響楽団と、また同じくツァハリアスの指揮でボルト・カーザ・ダムジカ管弦楽団と共演。またクララ・ハスキル国際コンクールの開催地ヴュエイでヴュエイ・クラシック・フェスティバルに出演した。2024年には再びボルト・カーザ・ダムジカ管弦楽団と共演したほか、ウィーン・コンツェルトハウス、リンツ・ブルックナーハウスでも演奏。ロベルト・シューマン音楽大学にてバーバラ・シュツェパンスカに師事。ロンドンのパーセル音楽院ではウィリアム・フォンに学ぶ。2021年よりワイマールのフランツ・リスト音楽大学においてグリゴリー・グルズマン教授のもと研鑽を積んでいる。2022年より2024年までロームミュージックファンデーションの奨学金を得た。2025年、岩谷時子 Foundation for Youth 受賞。公益財団法人江副記念リクルート財団第55回奨学生。

2027 season ミューザ川崎で聴く 夜ピアノ
ピアノリサイタル・シリーズ